愛國婦人

明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可
明治四十二年一月廿日發行
毎月二回(五日・廿日)發行
電話番町千七百四十五番　同五百二十番　振替貯金口座一一三八一番

社說

今日

中國なる余が郷里にては、夜分蜘蛛の出て來るときは、「をとつひ來い、をとつひ來い」といふが常なり。如何に蜘蛛なりとて、一昨日來られるものにあらず。一昨日來いとは、詰り來るなといふことなり人間もまた此の如し。如何に文明進みて、樣々の工夫發明出で來るとても、人間を一昨日來らしむるの術は到底發明せらるゝものにあらず。一昨日は勿論、昨日に在らんとするも、決して在ること能はず。人は唯今日に在り、今日に生活することを得るのみ。

或は言はん、昨日に生活することは出來ずとするも、明日には生活するを得るにあらずやと。珍らしき事を聞くものかな。如何なる秘術あらば、明日に生活することを得るか。明日は今日の次の日にて、たゞ今日より明日と言ふのみ。一夜明くればその日はまた今日にて、その次の日が明日なり。かくて何時まで經つとも今日に生活するのみにて、明日は長へに來ることなきなり。明日は、犬の鼻先に括り出されたる食物の如し。如何に走るも、常に鼻先に在りて、届くことなし。要するに、人は今日に生活するの外なきものなり。

今日は、昨日を緣として、無窮の過去と繋がり、明日に始まりて、無窮の未來と連なる。今日は明日までの大過去を受け取りて、明日以後の大未來に手渡しする間の宿なり。今日あるによりて、過去は活き今日あるによりて、未來に頼みあり。今日は豈に空しく過すべけんや。人の一生といふも、今日の緊がりにて、その日その日の今日が、積り積りて一生とはなるなり。生れたその日も、今日なれば、死ぬるその日も、今日なり。今日を外にして、人は生きらるゝものにあらず。されば、今日は最も大切にせざるべからず。今日を粗末にすれば、一生が粗末となる譯なり。古語に曰く、日々是れ好日と一日として、惡い今日あることなし。良く使へば、何れの今日も、皆好日なり。今日は天氣が惡くて、厭な日なり。或は今日は日柄が惡るしなど、罪を日にてかして、一日ぶら〳〵にて暮らす人あり、その間にも、地球は、重き體軀を轉がして、今日の役目を果しつゝあるに氣付かざるか。カーライル曰く、各の日は、年中の最良の日なることを、心に記せよ。各の日は、自己の運命を支配する日なることを感知するに至らずんば、人は何物をも正當に學び得たりといふを得ずと。我等は「明日ありと思ふ心の仇櫻、夜半に嵐の吹かぬものかは」など、明日をはかなみ、今日頼みおくべしと說くものにあらず、固より頓死の人もあらむが、そは千人に一人もなき事にて何人も、明日は大丈夫ありと見て差支なし。されど明日には明日の仕事あり。今日の申譯を、明日になさしむるは、腑甲斐なき事なり。今日の事は、今日爲すべし。何故に今日と、いふ立派なる日を賴まずして、明日を賴むか。明日には明日の仕事を預くべし。無爲に暮らして今日に耻辱を與ふること勿れ。さらずば、今日が我れに耻辱を與ふべし。今日は遲ければ、明日にせむとは、愚人の好んで言ひ且行ふ所なり。賢者は然らず、賢者は今日の事を昨日仕舞ふほとのものなり。延引は光陰の賊なり。延引又延引、遂に何事をも爲さずして、一生を延引の申譯に終るは、殘念の至りならずや。されば人は今日を大切に使ふべし。千載再來の期なき今日の名殘を惜みて、十分今日を貴く使ふべし。今日の一日ぐらゐは、何でもなしと思ふが、そも〳〵人間に蟲の入る始めなれば、互に勉勵して、一日も無駄の日なきやうしたきものなり。

會告

來る二月七日午後一時淺草本願寺に於て本會主唱者故正七位勳六等奥村五百子氏三週忌法要相營み候に付き隨意御參拜相成度此段廣告候也

明治四十二年一月

愛國婦人會

疑問

志つか

「お幾歳と問はれて兩手明の春。」かゝる年頃までが人間の最可愛い盛りの時也。所謂天眞爛熳とは斯る時代のこと也。かゝる時代に於てのみ人は眞に神に近し、否殆ど神そのものなり。かゝる神聖なる純潔なる人が年の長ずるにつれて心の醜く行の清からぬ人に變り行くが多きは不思議なことならずや。

慾に眼のくらむ人、劣情に驅らるゝ人、かゝる人の多くは決して生れだちより不純潔の人にはあらざるなり。生れだちは神に近く純潔なる人が、何時しか種々の世の塵に穢れて心の醜き人とはなり行くなり。所謂敎育を受けたる人、立派な家庭に在る人、世の師表とも仰がるゝやうな心の美しき人を兩親に持てる人にても生ひ行くまゝ美しからぬ人になり行くがあり。「何故ぞ」。この疑問は神世からの疑問にして、解決して欲しき今も未解決の疑問なり。

廣告料の値上げ

これは昨年からの宿題になつて居つたのでしたが、今度いよ〳〵此宿題が解決された結果、廣告料金値上げの實行と云ふことになつたのです。

第一に何故廣告料金の値上げをするのか其理由を申上げたい。

その理由の主なるものは本誌印刷部數の增加と云ふことであります。斯う云ふと甚だ手前味噌のやうではあるが、昨年の一月と本年の一月と本誌印刷部數を比べて見ると、私かに今昔の感があるほど增加して居ります。しかも、本年六月までには一層部數が增加して昨年末までの印刷部數の三倍は毎號印刷しなければ不足を感ずるやうになる筈に仕事が進行して居るのであります。

本誌の廣告が如何に利き目が多いかと云ふことは、毎號非常に廣告の多いことに依つても又たは、一度本誌へ廣告された方は二度も三度も引きつゞいて廣告さるゝのに依つても證明さるゝことゝ思ひます。然るに其本誌印刷部數は日に月に增して行くのであります。從つて利き目はいよ〳〵多くなるのであります。して見れば倍額以上値上げをして一向さしつかへ無いと思ふのでありますが、多年のお得意先へ對して、それでは餘りお氣の毒と思ひまして僅かに

一行金五錢の値上げ

をするのみに止めて置きます。尤も此値上げも來る三月から實行致すのでありますから、左樣御承知ありたく、且つ僅々五錢の增額で從前の三倍以上利き目ある廣告をなさることが出來るのでありますから、何人も決して御異存は無からうと思ふのであります。

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金三錢五厘
半年分金四十二錢●全國無遞送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麴町區牛ヶ淵公園內愛國婦人會發行所
編輯者永持德一●發行兼印刷人山澤俊夫●全部禁轉載

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議

如何して人生を樂しく幸福に過すべきか(二)

愛國婦人會評議員　鳩山春子

詳しいことは知りませぬが、大體前號に述べたやうに長命の人は世界に隨分あるのであります。處で左樣長命して居る所の人等が何う云ふ生活をして長く生きて居るかを知りたいと思ふのであります。人をして甚だ愉快に感じさせ、常に樂しませると云ふことは大層宜いことゝ思ひます。尤も此愉快と云ふ中には常に高潔と申すことを離れぬやうに、不潔にして高尙ならざる愉快は眞の愉快とは考へられませんのでありますが、斯る意味に於て人間は生きて居る間は他人に不愉快を與へないやうに、又自分も愉快に暮すことが必要だと思ひます。

何に致せ、何人でも毎日善いことばかりは無い。でありますから、極めて不愉快な腹の立つことや、馬鹿らしいと思ふこともあるに違ひない。併し、これが人生だと思へば何もさう不愉快に日を送ることも無いのであります。ですから、何でも可厭なことを自分の心で早く斷念めると云ふ習慣をつけるのが宜からうと思ふ。斯く斷念めて置きさへすれば自分も愉快に暮されて面白く、人も亦た面白い。から面白く暮されることならば一分でも長く生きるほどが宜い。唯だ命のあると云ふことが少許も善いとは思はれない樣に思ひます。

人は少許でも面白くないと云ふことは考へぬが宜い。殊に女は氣を若く保つが善いと思ひます。斯う云ふと、日本では人が惡く取りますが、私は左樣云ふことが大層宜いと思ふ。何も女が良人よりも年長と云ふことが善い例と云ふのでは無い、勿論男の年長の方が善いと思ふのであります。

西洋では女の年齡を云ひませぬから解らない。西洋では女の年齡を尋ねることが非常の無禮となつて居る習慣であります。それですから、若いと思つて結婚しても左樣でないことがある。隨分西洋には最初から詐欺に似たやうな結婚をしたのが幾計もあります。西洋には婚禮してから間も無く主人に白髮が出來たと云ふやうな人もあるので御坐います。日本のやうに戶籍を調べると云ふ事が御坐いませぬ故、後で失望をすることもあるのですが、幸ひにヂスレーリは失望はしなかつたけれども、斯う云ふことは奬勵すべき事ではありませぬ。私は唯だ女の人が八十歲にもなつたけれども良人は始終滿足を感じて居た、然るに其人が亡くなつてからと云ふものは、家へ歸つて來ても何だか自分の家へ歸つて來たやうな氣がしない、即ち家庭がないとまで良人に思はれた程までに、夫人は良人に對して常に愉快に致し滿足を與へて居つた其心掛けを一例として此處に引用したのみであります。

人間は何時も一から十まで左樣善いとばかりあると云ふものでは無い。人物を崇拜すると、崇拜した人の行爲の總てに就いて惡い事も善く見えたり致しますが、如何なる豪い人物でありましても、さう一から十まで善いと云ふことは無いから、公平に分析して見ると惡人でも惡人と云ふ中にも一つ位は善い所もあります。ですから能く自分の常識で判斷をして如何なる善い人、又は豪い人でも惡い所は避けなくてはなりませぬ。

世間の人は私のことを西洋崇拜のやうに申しますが、私は何は兎まれ、善いことは何處までも西洋から取るが善いと思ひます。隨分西洋にも國の爲めを思ふとか、家を思ふとか、朋友互に信義を守るとか、子弟の情誼が厚いとか云ふやうな善いことが澤山あります。それに勿論、從來日本にも大層善いことが澤山あります。女の貞淑と云ふやうなことは日本婦人の特色であると云ふやうに、我國にも善いことがある。て、ありますから相互に自分で能く考へて判斷して、善い所は取つて、而して相互に此人生を愉快に送ることは非常に幸福なことであるから、一日でも愉快に幸福に暮せるやうに考へたらば善いと思ひます。

人間最高の樂(四)

山根正次

我輩が眞に驚かざるを得ない事は、一等國の首都たる東京に於いて、只一つの市立の慈善病院がない事である。歐米各國には、一として無い都會はないのである。いくら戰爭に勝つて一等國だと威張つてゐても、それはカラ威張と云ふものだ。首都の代表者當局者に眼中慈善事業がないのは、殊に遺憾な次第であるのだ。

およそ國民が慈善心を養ふと云ふ事は一朝一夕の事で出來るものではない。また何か偶然の事でつくられるものでもない。之は各家庭に於いて、親たる人が此心得をもち、子供の時から深く養成して行かねばならぬ。親たる人の心得として先づ無駄づかひを止めなさい。而して其金を以つて人をたすけるやうになさい。此が先づ慈善と云ふ大事業のはじまりだ。

世の中に動物虐待防止會と云ふ會がある。至極結構な會で、我輩も賛成するのである。けれども其言ふところが時として甚だ末枝の事に渡つてゐる、鰻の二ヨロ二ヨロしてゐるところを割き、犬を撲り殺すが如き甚だ慘酷の事だと云ふ。けれど其段ぢやないのだ。人間の虐待と云ふものは、もつと酷い。街を歩くとすぐに其事實が發見せられる。見よ、荷車を小僧にひかせて大僧が其上にのつて、平氣で歩いてゐるではないか。斯くの如きを見ては、動物虐待防止會どころぢやない。人間虐待防止會の設立を望まざるを得ないのである。世人が動物の虐待をのみ防止せむとして、人間の虐待を防止しやうとしないのは、何故ぞ。我輩は寧ろ不思議に思ふ。

殊に一般家庭に於いて、人を憐むの情に乏しい事は、實に驚くべき程である。雇人にはまづいもの食はせて、酷き使つて、家長が遊んでゐて、其美味いもの食つてゐる。斯の如きは、敎育の結果か、習慣の結果か、我輩は甚だ情なく感ずる。かくして慈善心を養成する事は到底不可能な事である、かかる家庭に成長したる小供は、自己中心主義の人となつて、趣味性下等なるため、遂に墮落してしまふことは、確に受合である。

近頃或る集會の席上に於いて、自分が云つた事があるが、「一體に今の小僧と云ふ小僧が皆顏色が惡い。一體小僧と云ふものは、云ふまでもなく、身體が壯健でなからねばならぬ。然るに此の通り色がわるくては、養生が行き屆いてゐない事がわかる。營養不足と云ふ事は疑ひもないのだ。」

ところで、家長が晩酌の燗酒二本も減ずれば、其小僧にはおよそ四合の牛乳を飮ませる事が出來るではないか。此は實に大慈善ではないか。小僧は此がために壯健になり、愉快に一生懸命にはたらくやうになる。小僧が働けば主人が利かる事となり、つまり主人は、燗酒二本を節したため、酒より受ける主人の病は、それでなくなり、その上に利益が來て、家が繁榮するわけではないか。

慈善は人のためではない自分のためだ。願くば燗酒二本を節する此心得を世の中のすべての人が常に持つて居る事を深く希望するのである。我輩が、慈善を以つて新年の詞とするのは、つまり此意味であるのだ。慈善は即ち餘慶を來すので、積善の家には餘慶ありと云ふ聖者の言を繰返して、讀者とともに人間最高の樂を樂たいのである。(をはり)

世の進歩に伴へる女子教育(下)

前外務大臣子爵　林董

△宗教の如き△

西洋では天主教でなければならぬと云つた時代もあつたが、頓て新教の孰れても可なりと云ふ時代となり今日では、一層範圍が擴張せられ、耶蘇敎でも可なり、佛敎でも可なりと云ふ傾きになり來つた。無論、無宗敎者を厭ふのは事實であるから、我邦の婦人に於ても無宗敎者となると社交上侮蔑を受けることゝなるだらうと思ふ。

△主婦第一の注意△

西洋では婦人が互に訪問する時間は、午後三時から五時に限られて居るが、其時間の約束を嚴にする美習は是非我邦に實行せしめねばならぬ。人に對して心持を善くすると云ふ第一の注意は、主婦たるものは朝起きるや否や、先づ客室の整頓や身仕舞に注意し、齒磋や、服裝のなきやうになし、瀟洒たる粧ひを爲し、淑女の態度を守らねばならぬことである。されば、男子の壯士らしく、東洋豪傑風であることの厭ふべきが如く、婦人の御俠らしいことは餘り褒めたことではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

予が見たる明治の和歌

子爵 黒田清綱

私は餘暇があれば和歌を詠ずる仲間入りを致して居ります。

種々研究致して見ますと、和歌には日本の純古文學式氣韻があつて、仲々趣味があります。今日の歌道界には兎角西洋かぶれの風調がありますから、高崎氏始め坂氏の和歌でも古格を失して居ります例へば露西亞語でも佛蘭西語でも英語でも新文學として輸入せられて居るから、彼の長を取りて我が短を補へば和歌の如きものは一大發展をするならんと云へば何人も異議なき名論として耳を傾けますが、今日の和歌を古人の崇高なる句調と比較せば、今日程退歩致したることはありません。

萬葉、古今六條、新古今なぞの長を採りて柿本や山邊やなぞの歌聖を凌ぐべき筈である處の明治の和歌は、啻に俗調を帶ぶる他名作の出でざるは實に遺憾千萬であります。

美術の方面を見ても、丁度和歌と同じやうな型體に陷つて其退歩の甚しきには驚くより他はありません。日本美術を發展するには、純粋なる日本の美術を保存致したものであるにも拘はらず、西洋臭い事は兎角純粋なる日本美術の發展を阻害する他には何等の得る處がありません。西洋畫は西洋畫として發展しつゝあるやうに、西洋臭からぬ日本美術がなければならぬではありませんか。

勿論元信の人物を描きたる筆法と西洋畫の人物を描く方法とは、暗に一致する點はありますけれども、その一致と云ふのは唯だ僅かに同一なる處があると云ふに過ぎませぬ。

私は和歌も美術も西洋臭き處がないことを希望するので御座います。西洋臭き和歌の存在を必要とせば、三十一文字に限らるゝよりも寧ろ新體詩の句調をば西洋式に發展すれば宜いと思ひます。一國の美なる點は飽までも保存すべきが、第一に必要と思ひます。私は柿本や山部や古今六條の歌人、新古今時代の人々、近世では本居翁や香川景樹翁の歌をば一々比較して研究し、其長を取りて調和を謀つて居ります。今日となりては別に崇拜すべき人なきやうに思ひます。

△次號には…千葉胤明氏（御歌所寄人）の歌論を掲げます。前掲黒田子爵の歌論と對照研究せられなば諸姉を益すること尠なからぬことと思はれます。　編輯者

西洋生活は經濟的と活動的

竹越與三郎

客室の掃除に女中一人多くを要する日本室の廊下式は不經濟ならずや。

西洋室であれば、一週間一回大掃除を爲し置けば、日常には箒やはたきで澤山であれど、日本室は毎日の雜巾掛けゆへ到底西洋室のやうな粗雜な掃除では、客を満足させることか出來ない。暖室爐の前で談話をするのと、火鉢を前に置いて應接するのと、取扱上の差を見れば、何人も西洋室を準備すべきことである。

鈴を一つ押せば、女中一人でも應接には充分である。萬一女中が他用をなし居れば、細君が出て來客を迎ふるも、さしつかへは無い。

然るに、これが日本風であれば、女中一人では仲々應接にも困難であります。西洋かぶれと云はれるか知らぬが、この點に於ても、西洋生活は確に經濟的だと思ふのである。

西洋風の生活は啻に經濟的であるのみならず、活動的だと思ふ。日本風に生活すると兎角、室内蟄居主義となりやすいと思ふ。室内蟄居主義必ずしも惡くは無からうが、世の中は日に月に進歩する。この進歩に伴ふ生活には、最も趣味ある經濟的にして活動的なる方法が必要であるとせば、予は最も西洋生活を鼓吹したいのである。

此頃の新聞にも出て居るが、近頃日本は實に生活に困難を極めて來た、生活があぐるしくなつて來た、牛肉や牛乳の直段てさへ、歐米よりも却つて高値になつて居るのである。

斯く生活があぐるしくなつて居るのにも關はらず、概して云ふと、世間一般に昔風の生活をして居る。昔風の生活必ずしも惡いとは云はぬけれども、何うも不經濟な生活のやうに思ふ。

何故かと云ふに、先づ玄關の作りからが、幾人も人手を要するやうに出來上つて居る。これが上流社會ならば、その筈てはあるが、所謂あぐるしい生活をして居る中流以下でも、家の構造だけは兎に角古風な、不經濟な不活動的な構造ざまをして居る。私は何うも不思議でならぬ勤儉と云ふことは至極結構なことてはあるが、經濟的な活動的な生活をして一層有用な處に勤儉することは、今の時勢に於て一層必要なことてはあるまいか。

年賀帖（一）　一條成美氏

愛國講座

趣味修養の必要（二）

早稻田大學講師　紀淑雄

さて一概に修養と申しても、其の中に智的なもの、道德的なもの、美的なものの種類があつて、此等はいづれも偏廢輕重の出來ないものでありますが、其等がいづれも特に今の我が國民に必要であると思ふのであります。

併し上に云つたやうに、我が國民は精神界に於ても、物質界に於ても、内外から未曾有の刺激を受け、重大な責務を負ひ、其れに日々堪へて居るのであります所が智的の修養では、自覺的意識的に成つた人々の心の底に潜んで居る疑問を釋き、懷疑の念を拂ひ、光風霽月の思ひをせしむる事の出來ない所がある。殊に經驗の知識に富まぬ血の若い男女の心には概ね多少懷疑の雲が掩ひかゝつて、多少の煩悶を免かれないやうでありますが、知識で滿足せられない斯る時代の人々には、特に自足悦樂の快感を與ふる美的修養の必要を感ずるのであります。また德性の修養がやかましく唱へらるゝにも拘らず、往々倫理道德の利刄が是非曲直善惡正邪の裁斷に鈍ることがある。又宗教上の信條又は教理に疑を懷く人も多く、無明の暗に迷つて、徒らに救ひの聲を放ち、煩悶してゐる人が多いやうである。かゝる事は今日に限つた事ではあるまいが、併し現代の著明な現象とも思はれる而して智性の修養と共に德性の修養で、現に自足安心せられぬ事を、深く切に感ずる現時に於ては、一層美的修養の必要を感ずるのであります、言ひ換ふれば、趣味性の修養の必要を感ずるのであります。

美的修養は分析的な抽象的な冷靜な智的修養の及ばざる所に到らしめ、父のやうに嚴格な窮屈な道德的修養に對しては母の如き慈眼温容を以て其人の趣味を高尚にし人格を完全にするものでありますから、其必要は今に限らぬのでありますが、併し一般の趣味が時代の弊風に伴つて、或は物質的であつたり、或は利己的であつたり、或は實感的に傾いてあるが如き、若しくは思潮に幾分懷疑不安の響を帶んで、永遠高上なる理想の光明なかならず、宗教には又權威なくして、安心立命するに由なきが如き、若しくは又中心となりし士民の高尚なる趣味は、漸次惰落低下し、卑雜にして俗惡なる下流の趣味が漸次上進するが如き現代にあつては、殊に一層健全な文雅な趣味の修養の必要を感じます。

また我が國在來の文學、音樂、繪畫、彫刻、建築などが、西洋のそれ等の影響を受けて、種々の變化を起し、未だ新なる明治の文藝の特色が大成せられざる爲め、趣味又は鑑賞の標的となる者の明かに定まらない樣な今の時には、健全な文雅な趣味の修養が特に必要であらうとも思はれます。

△御題雪中松　山口　内藤十六

雪滿庭松月色籠　堅心勁節戒微躬
四時無變蒼々質　知是大夫十八公

年賀帖（二）　武内桂舟氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隠れたる德

齋藤吊花

二

狹いが眞直で、石礫一つない村の往還がある。自分はこの村に到着した第一日目に、宿の老人に向つて

「私は此村に來て非常に愉快に感じた」と云ふと

「何が愉快なものか。淋しくつて、陰氣な村さ。」

と冷笑する。そして眞面目な顔をして

「大抵のお客人が、あの山王の大櫻を褒めぬものはない。春はあの櫻一本で、幾人客を此村に吸ひ込むか知れやしない村の名物は山王山櫻と橋詰欣一郎といふ國會議員さ。」

「イヤ、私のは左樣ぢやない。まづこの村へ入つて第一に氣持の善かつたのはこの往來の路だ。大抵の田舍道は凹凸があつて、車に乘つてもガタリ〳〵と腹が落付かない。危險で、腹の工合を惡くするが、この道は、町のよりも平坦て、そして塵埃一つない。」と云ふと、老人は膝を拍つて

「若いに似合はず能いところに氣が付いた。お前さんは豪い。」と無暗に褒め立てて

「それも橋詰の媼さんの撒いて置いたお餘德のお陰さ。」

「その次に感心したのは、何の家も何の家も愛國婦人會員である事だ。」

「咄！」と老人は、眼を睜つて、扨次にさも自慢相に「これも橋詰の媼さんのお陰ぢや」と煙草をパッと手の掌に叩き落しくる〳〵と廻しながら、大い雁骨に新しいのを詰めて、すツと吸上げた。

歌かるたの話（下）

つくば

▽誤讀された歌

讀み法と云つても朗詠法ではムいませんと申すのです。歌を間違つた讀み法をしてはいけないと申すのです。例へば

「名にし負はゞ逢阪山のさねかつら人に知られで」を知られてと淸音に

「山川に風のかけたるしがらみは」やまがはと濁るべきを淸音に

「今來むといひし計に長月の有明の月を待ち出づるかな」いでつるかな、若しくは「出るかな」と云ふを、待ち出づるかなと時を誤りて讀み

「夕されば門田のいなば訪れて」を夕ざればと濁り

「千早振る神代もきかず龍田川からくれなゐに水くゝるとは」を水くぐるとはと意味を誤りて讀み

「戀すてふ我名はまだき立にけり人知れずこそ思ひそめしか」を思ひそめしがと濁音に

「みかの原わきて流るゝ泉川いつ見きとてか」をいづみきとてかと濁りたるなど探せば未だ澤山あります、注意さへすれば何でも無い事を、口から出放題に四邊かまはず讀むのですから、溜りません。知らず〳〵謬まるのです。我美音を聞けと計り氣取つて、他所行きの絹を裂くやうな聲を張上げても此樣な眞似をすると、全く打破して仕舞ひます。

▽競技の心得

誰でもですが少し競技に油が乘ると夢中になつて、身嗜みのなくなる者で、斯う云ふ時に、僞りの無い、飾らない其人の性格は出現れるもので御座います、てすから、負け厭ひの婦人が、一枚お箱を拔かれた口惜しさに、對手の頭を思はず叩いて、後て氣が付き、ああ惡い事をしたさぞ蔑すんで居るだらうと、明日砂糖袋を持つてお詫びに行つた、と云ふやうな事も出來るのです。又意地の惡い人は對手が如何なに難戰して居ても構はず、又は同時に手をつけて、未だ海のものとも山のものとも判らないやうなのでも構はずに、ドシ〳〵送つたり致します。ですから少し注意して傍觀すると、此人は意地惡るだな、彼の人は思ひ遣りのある人だと云ふことが直ぐにわかります。何をしても左樣ですが、殊に歌がるたをする時は、禮を缺かぬ程度に於て夢中にならねばなりません、

▽戰陣の構ひ法

此は競技に於て第一の要點で、戰陣の構ひ方が惡ければ、敵に付け込まれますから、同等の人なら必ず負けます。兵法でも地の理は第一に重ぜられて居りますが、歌がるたでは札の並べ法です。自分の持札が何處にあるか判らないやうでは、敵手の札が取れる筈がない、若し取れたらそれはまぐれ當りです。

▲五十音順に依て並べる法は、普通一般に行はれて居ります。これは並べるに飲込むのも、早い事は早いけれど、同時に敵にも乘ぜられ易いと云ふ弱點があります。

▲それよりは寧ろ下の句の頭文字順の方が多少宜しい

▲然し其よりも宜いのは私の並べ法です、手前味噌ではありません、實際ですから、私のは一枚々々並べるのですから、初め覺える迄は面倒ですが、その代り對手の眼を疲らせて、比較的乘ぜられないのでムいます。

▽私の陣列

私は百枚を三段に分けて、第一段が皇族並、女、第二段が男、第三段が坊主と、大體を分けて置いて、それを標準に少し宛變へて、今では彼の歌は第一段の其處、此の歌は第三段の此處と云ふやうに、自然に飲込んで仕舞つたので、彼の五十音順で困難なる、あ行の十六枚も平氣なのでムいます。

此の列べ法は大層勝手が宜い而已ならず、趣味ある高尚な配列の方法だと存じます。猶悉しく申上げるのでムいますが講釋をする者に限つて、實地に當つて上手なのは無い抔と申す怪しからぬ譬喩もありますから、此の位で筆を擱きます（終）

防寒上の唯一品　お伽煖爐

この寒い季節に唯一の防寒品として目下非常の好評を博して居るお伽だんろは東京麹町區飯田町四ノ二二佐々木四郎氏の發明品で高尚優美なる七寸に四寸高さ一寸五分程の大きさの品恰度小判形になつて居りますから携帶にも至極便利ですし中へ普通懷爐灰を入れて置くのでお尻に敷いても潰れる事なく足をのせても毀れる事はありません。殊に婦人は寒さの爲に婦人病を起すことなぞが好くありますから此煖爐を用ひて脚腰を煖めるやうにしたら至極よからうと思ひますソレにお尻に敷て坐れば自然姿勢も直り且つ長坐に堪られます車や馬車に乘るなどもこれを用ゆれば僅かに寒さ知らずです殊に汽車旅行などには極めて適當と思ひます產科婦人科女醫鷲山彌生女史などは女生徒にも之を使はせたら衞生上非常に宜からうなどと申され既に同校へは三回も品を納めたさうです。榊、弘田、吾妻、瀨川の各博士を始め各醫師の大歡迎を受けて居るさうです。記者も實物に就て試驗しましたが十時間の費用一錢で宜い上に其工合の好い事に感心しました各新聞で好評を與へたのも當然の事と信じますから廣く諸姉に御紹介すると同時に本發行所でも取次で差上ます。代價は絹天張一個四十錢サラサ張卅錢荷造料地方二個迄十錢何れも箱入りてす。

御園化粧品目錄

畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛高貴御化粧料
長谷部仲彥氏發明

御料　御園白粉

煉製　御園白粉　濃化粧。顔ゑり用ねりおしろい　純白。淡紅色　壜入金二十錢。金三十五錢。金七十五錢　特製金廿五錢。金五十錢。金一圓。金三圓

樂屋用　御園白粉　舞臺化粧用。濃化粧專用固煉おしろい　小器 金四十錢　大器 金七十錢

との粉色　御園白粉　舞臺化粧用。砥の粉代用。肌色固煉おしろい　壜入 金四十錢　硝子器入 金一圓

水製　御園白粉　薄化粧用。純白、淡紅色。水おしろい　壜入 金二十五錢　大壜 金五十錢

粉製　御園白粉　洋風濃薄化粧用及顔なほし用。粉おしろい　純白。淡紅色　紙包金十錢。紙函入金廿錢。壜入金五十錢　かくし化粧用ポット付紙函入金五十錢

美顔料　御園クレーム　洋風化粧白粉下。かくし化粧下兼用　舞臺化粧及素顔濃化粧專用白粉下　小器 金貳拾錢　大器 金五拾錢

濃化粧用　御園の蕾　錫入 金十錢

化粧水　御園四季の花　あれ性の人に適する化粧水　錫入 金貳十錢　大壜 金五十錢

化粧水　御園とき水　脂肪質の人に適する化粧水　壜入 金十五錢　大壜 金五十錢

打白粉　御園なでしこ　懷中用顔なほし。あせどめ用。はや化粧　紙包 金十錢　かくし化粧 金十錢

香油　御園水油　髮の毛黑く。艶々しくなる水油　壜入 金三十錢　大壜 金五十錢

髮芳　御園香精　純粹の花精のみを以て製したるハンカチーフ用　壜入 金三圓　別器 金五圓

化粧香水　御園の橘　芳香果精を以て製したる化粧用香水　大壜入 金一圓

殺菌消毒　御園歯磨　長谷部仲彥氏多年の研究に依りて調劑したる　壜入 金二十錢　大器 金五十錢

製造本舗　東京芝　伊東胡蝶園

發賣元　東京日本橋區橘町四丁目　小間物化粧品問屋　丸見屋商店　〔長〕電話浪花四四八番　振替貯金六五三六番

雜報

▽**御製の雪達摩**　降り積める白妙の初雪禁苑を飾れば、聖上御座所御苑の眺望ひとしほの興をぞ添へたりける、皇后陛下御庭前の彼方小高き丘續き五輪の塔の銀樓と化し釣り金燈籠の綿帽子冠れる瓊林花開く大奥の雪景いみじう面白きに御勇健に渡らせらるゝ　聖上陛下には雪達摩造りて慰さまんとの御諚を下し給ふ事あり侍從等畏みて雪解けぬ間てこそ肝要なれ雪掻道具は何處締はと急ぎ宮人取り添へ捧ぐれば畏くも　聖上御親ら雪を運ばせられ或は牛の形或は達摩の座禪像など大きやかに御製あり此上無う慰さませ給ふ有司の朝六時と云ふに御苑を見廻るに、御製の雪達摩或は巨牛の稍融けかゝり達摩の頸を傾げ巨牛の角落る樣を見て心を痛めなどす蓋し畏こき　御製の御物にしあれば臣下濫りに手を下すこと叶はず日光の照り渡りて自然に融け行くを待つが從來の慣はしなればなりとぞ承はれるぞかしこしともかしこしや。

▽**貴婦人の年始會**　時間の空費と禮の繁縟とを避くる趣意で創められた婦人年始會は去十一日午後一時半から富士見町富士見軒で開かれた此會は去卅九年に成立したのであるが昨年は故あつて開會せられず今度が丁度二度目になる會場は同軒二階の大食堂で卓上には綺麗な盛花を幾個か供へた位の事で裝飾は至つて質素てあつたが元來年始交換が趣意故いづれも卓の彼方此方に打寄つて親しげに嬉しげに物語らるゝ樣春は此堂に滿ちた思ひがした。御馳走としては會費の一圓に相當する西洋菓子と水菓子、珈琲、チヨコレート、葡萄酒位、餘興には鳥居とき子の筑前琵琶があり四時半頃散會した。誠に好い思ひつきの會合てあつた。

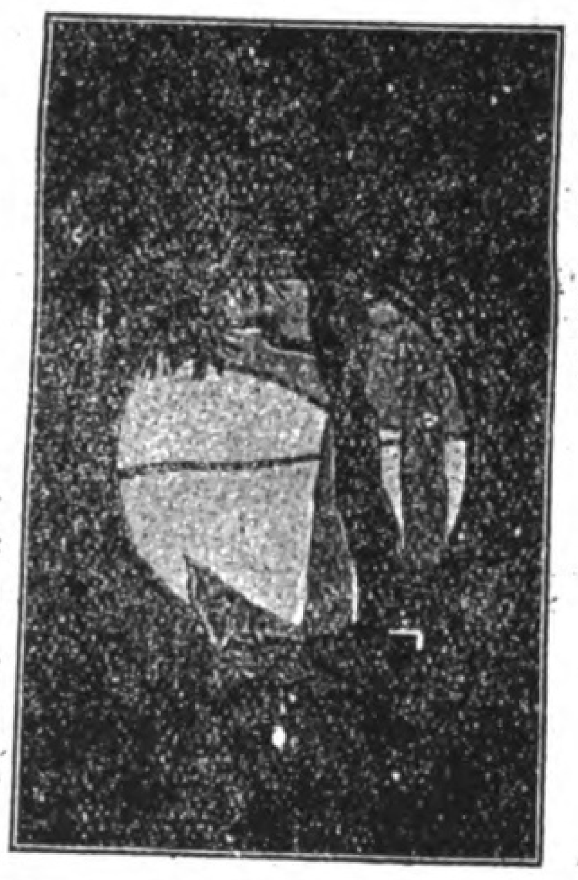
▽**唄の歌へぬ音樂家**　先頃より東京音樂院に隔日通學しピアノに向ひ熱心に指を動かしつゝある青年あり名を關口藤吉郎と云へる目下東京癈兵院にある二十八歳の少壯癈兵なるが去卅七八年戰役の際召集せられて戰地に赴き一等卒として各戰爭に參加し奉天會戰の際不幸敵彈の爲に右肺を貫かれ其儘後送されて遂に憐れむべき癈兵となりしものなりとぞ然るに此青年性來音樂に趣味を有ち出征中も唱歌など口吟み居りしが聲を出すに最も肝要なる肺を害せし事とて少からず落膽せしが聲樂には不適當なりとも此上は兼ねて好める音樂に身を委ね將來はピアニストとならんものと此旨癈兵院長なる川崎少佐に圖りしに氏も大に其志望を賛し茲に東京音樂院に入る事となりしが院長も快諾して無月謝の特點を與へて義俠的に敎授しつゝあり且本來其道に趣味を有するだけに其發達頗る著るしき由。

▽**ヨルカの集會**　去十一日午後六時から駿河臺の神學校でヨルカ會が開かれた祈禱に次て日露國歌を交も歌ひ扨て同校敎師生徒に依つて催された一部二部の對話唱歌演藝合奏があつた孰れも面白かつたが就中チエホフ作「喜」と云ふ露語演劇、リクロフ作同上「デミソンの吸物」は非常に面白かつた。尚ほ當日の主賓たる露國大使令孃のピアノ彈奏は番外としてゞあつたが實に巧みなものであつた。當夜は梨本宮邸へ參候するとて大使は半途にして辭された。兎に角趣味多き集てあつた。

▽**新年の雜誌界**　それ〴〵立派に意匠を凝して出たうち婦人世界の附錄「貴婦人の今昔」は面白い思つきてあつた△女鑑と女學世界との長處を折衷したやうな婦人くらぶは今一いきと思はれる△婦人書報は新年號も臨時增刊も振つて居た。

スミレ香水　東京　平尾分店

年賀帖（三）



久保田金僊氏

家庭料理　津川千代子

鉢煮鯛の若菜むし

材料　みの松だけ、末廣竹の子、梅くわゐ、朝日生が、一鯛、一松茸、一竹の子、一くはゐ、一小松菜、一砂糖、一鹽、一酢、一紅

鯛は小鯛にても切みてもよろしうございます。うらおもてに鹽をして二十分間程おき、竹の皮を魚の大きさ程に切つて蒸籠にならべ、その上に魚をのせて、湯の煮立つた處にかけて十五分間程むします。別に小松菜を少許り（ほうれん草にてもよし）水にて洗ひ葉は摘んで庖刀で極細かにたたきそれを布巾に包んでかたくしぼつておき、魚に火の通つた時、魚の上に平に全體にふりかけて、また一寸（二三分間）蒸します。

簑松茸　鑵詰の松だけの石づきのかたき處をとりすて、莖を針にて極細かに裂き鹽酢につけておき、それをかるくしぼりて砂糖を松だけ十個にて茶呑茶椀一杯程を入れ（あく引砂糖なら尚よろしうございます）唐がらし三四本をあとさきを切つて種をとり、水少しにて一寸煮立てさまして右の砂糖の上からかけて一晝夜ほど漬けおきます。

末廣たけのこ　鑵詰の竹の子を巾五六分長さ一寸五分程に切つて、それを根の方四五分を殘して細く縦に切り一寸うでて水けをしぼる、鹽酢につけ前と同じやうに唐がらしとさとうとに漬け込んでおきます。

梅くはゐ　くはゐを梅にむいて（五分位に丸くむきます）二十分間程うでて、うで湯をすてて食紅を水でといてくはゐの中に入れ十分間程煮て紅色になし、水をたつぷり入れてざつと水洗をして、砂糖と鹽少しとを入れて三四分間程煮ます。

朝日生姜　生姜を二寸位に斜に切りすて煮立つた湯で一寸うでて、酢つけて赤く色を出して魚のつまにいたします。みな出來上りましたら、鉢に若菜むしを盛り、そのわきに松だけを簑のやうに廣げてつけ、竹の子は切つた處を廣げて扇子の形にしてつけ、梅もそのわきにつけます。これは松竹梅にいたしたのですがから揃いませんでも[illegible]一品でもよろしうございます。

さしみ代り

五分切わけぎ、つみわかめ、せん大根、さいがたまぐろ、たんざくうど、のぬた、

まづわけぎを（わけぎがございません時はたいの葱でもよろしうございます）五分位に切つてうでます

（以下次號）

▲高尚なる藝術に志ありて家庭の和樂を望まるゝ夫人令孃の好讀物▼

再版　俗曲評釋第一編　長唄の巻
文學博士上田萬年　文學博士坪内逍遙　序
文科大學講師　文學士佐々醒雪著　鏑木清方畫
正價金六十錢　郵税六錢

新刊　繪入美本　俗曲評釋第二編　琴唄の巻
坪内博士曰く我嘗ての文藝のため珍重す可きに存じ候とりわけ小生に取りては梅雨漸く晴れて月を松間に見る心地いたし云々
上田博士曰く有益なる著述を公にせらるゝは我輩の歡迎して措かざる所である云々
正價金六十錢　郵税六錢

新刊　彩畫美本　家庭夜話　樂しきまとゐ
巖谷小波　大町桂月　佐々醒雪　白河鯉洋　序
お伽館主　福田琴月著　田代古崖　富田秋香　畫
小波氏曰くおぢさん明日の晩も明後日もよとあとを引くその如く此本の版を重ねんこと請合ひ云々
醒雪氏曰く夏の夜の門涼み埋み火に栗の燒ける間を子供も大人も興に入らんはげにも樂しきまとゐならずや云々
正價金六十錢　郵税八錢

以上三部一纏めて御注文には特價壹圓七拾五錢（郵税とも）
以上の內隨意二部御注文には特價壹圓貳拾錢（郵税とも）

琴月新案　洗馬畫　十大畸人拔萃　お伽かるた　說明書入　一函三十錢　郵税四錢
琴月新著　古崖畫　お伽噺史談　豪傑四季　四冊帙入　一部十二錢　郵税四錢

東京市神田區小川町一番地　電話本局二六九七　忠文舍　振替一七八三〇番
振替貯金御送金は必ず口座料二錢を添へられたし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

—新年雜題—

天 東京 飯塚きよ子

のとかにも空まふ鶴のいたゝきのあかねさしそふ初日影かな

地 伊勢 日野千鶴子

新たはら倉にみちたる家々はいかにゆたかに年むかふらん

人 函館 安藤喜美子

天地もあらたまりたる心地して大路のとかに年立ちにけり

秀逸

羽子つきて遊ぶをとめ子みるからに老いしわか身の昔戀しも 茨城 綿引馨子

明わたる年の初日を仰きつゝ聞もうれしきたかけの聲 神奈川 足立原とく子

わかやとの梅の一枝つとにして年ほきかてら友をとはまし 岡山 西村長子

花ならはうれしからまし野に山にましろにつもる今朝の大雪 美作 入木清子

ひなとりの親はなれせる初聲を年のはしめにきくもうれしき 岡山 西村長子

もろともにきちおほかれといのるかなけふたちこへるとしのはしめに 越後 阿部秀子

朝夕に見なれし庭の草木さへ年たつけさはめつらしきかな 長門 鷹田眞子

くすり酒くみかはしつゝ新らしき年のはしめを祝ふ今日かな 東京 林きく

昨日よりさして迎へし梅か枝は今朝の初日にひとつ開きぬ

注意。此號に限り編輯の都合上、和歌俳句等凡て編輯局に於て選評せり。題外應募和歌は凡て次號に掲載す。

短文

△好めるもの五種▽

天 京都 つゆ紐子

一に一葉樣の御筆の味、夜更に獨味ふと二に匂袋もつほどの女ごゝろ三に棧留じまのやゝ着なれて古びたる四に忍草軒にかけたる片山里のわび住居五に五山の鐘の聲を霜雲入にきゝたる。

評。一二三ともに選者の意を得たり。匂袋もつ程の女心殊にうれし。

地 廣島 金原直子

秋が一番好い、柿栗枝豆皆秋のものである、紅葉にかゝる時雨殊に嬉しい、月の冴えた靜かな晩、微かに聞ゆる砧の音も慄ひつく程氣に入る、遠いだけ尚好い。ひるがへつて打つ人になつて考へて見る懷かしい夫、愛する子の爲に、溫かい血は胸に漂ふて思はずも微笑まれるだらう。

評。砧打つ本人になりての感想興いと深し。

、○ 大分 桂木靜子

好める物は澤なれど、松に巢くひしひな鶴と、梅にかゝる朧月、和歌は貫之、書は我堂、花は姿艷く櫻より獨霜雪の中に嚴然とほゝゑむ梅こそ妾は理想の花として最好ましい。

評。貫之の歌は誰しも好きなるべし。

、、○ 佐賀 小林龜子

最好める書籍と繪葉書とを絕へずおくり給ひし兄君は逝き給ひぬ。あはれ病いえなば旅行好きのわれを伴ひて、東に西に遊ばんといひ給ひしものを、などつめたき苔の下には入らせ給ひけん、恐しかりける奥津城も好める兄君います處となりてより、日每とひたきまでこひしくなりぬ

評。想筆併すぐれたり

、○ 岡山 八木清子

最愛なる長女のしげ子、或日お母さんのお好きな物は何ですかと尋ねました、そなた等が姉妹仲よくして勉强するのと、精出してお仕事をして、お里へ行くのとお父さんの禁酒をなすつたのです。それだけですがまだあります、愛國婦人でしやう、そうですよ。

評。面白き會話なり。

、、○ 茨城 木内きく

林檎。屋後の小園にあり親父の植うる所に係る

水仙花。根を小盆池水中に託して塵も泥土を受けず

鳩。可愛き鳥なり

愛すべき友。五六哩を隔てゝ住めり

松蟲。聲の細くして調子の明かに聞ゆるものなり。

評。文の行數規に違ひたるを遺憾とす

、、、○ 香川 瀨高やす子

犬は好き好き親でも子でも、花は何でも黑髮に一枝折て挿すが好き、果實皆大好きで、その中林檎の赤いのを頰ずりするのが私大好き、せめては一生の思出に都住ゐの身となつて、記者樣と一口お話して見たい。

評。櫻でも咲く頃には是非お出掛けなさいまし。一口と云はずゆつくり御話を伺ひませう。

國民美育上の要典

美術は文化の精粹にして一國の品位を代表するものなるが故に美術の如何は直に以て其國の品位を知るに足り美術思想の發達せると否とにより其國の文野をトするを得べきこと論を俟たざるなり故に文化の發達せる歐洲に在りては美術旺昌にして一般國民の美術に對する思想頗る發達し隨つて古代美術の各品盛んに複製せられ小學校の賞品にも此等の複製品使用せらるゝの有樣なり然るに東洋の美術國と稱せらるゝ我國は如何、美術は單に骨董の一部に過ぎざるの觀ありて一般國民の美術思想は極めて幼稚にして美術を骨董視するの餘自ら美術思想を養はんとをせず爲に海外人に接して談たまく高尚なる美術談に及べばおのづから赧然たらざるを得ざるとあり是歐米に遊ぶ者の屢々經驗する所なるべしされば一般國民の美術思想を涵養するは智育德育と相待て最も切要なるものなりと雖も從來之に適應すべき美術書なく、たまく是れあるも高價にして上流人士のみ能く之を購ひ得るに過ぎず原物は高し之を複製したる美術書はまた高しといふ有樣なりしかば東京美術學校長等は多年此問題に就て研究する所あり今回國民書鑑なるものを撰輯し美術書發行者として有名なる審美書院(東京京橋區新肴町)に囑して最低廉價を以て之を發行せしむることゝなりたり其登載圖目は推古天皇より維新前後迄に至る千餘年間の名品傑作一百點を網羅したりといへば其完備なること知るべく印刷は審美書院の手に成れば其鮮麗なること亦期して待つべし而も價格は一部僅に五圓五十錢なるが故に美術書中の最廉なるものといふべし苟も文明國民を以て自ら許す者は本書を筌諦として美術思想を養ふべきこと吾人の切に勸告する所なり

產科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮內省御用達 玉寶堂 電話下谷(特九六五番 一二四四番)

試られよ子宮病の婦人服藥よりはちか道なり

こしけ●せうかち●子宮のいたみ●つきやくのいたみ●其他一切の子宮病(癌症を除く)を根治し又是が原因となりて起るづゝうめまい●腰や下腹のつりいたむを治す●又子宮を暖めて丈夫にする故自ら健全なる小兒を擧ぐの幸福を得らるべし尙本劑は有力なる殺菌性を有するが故に梅毒淋病等の感染を防ぐの効あり

藥價 五個入卅錢 十個入五十五錢 ●廿個入壹圓 ●五十個入貳圓卅錢

記臆せよ何れの產科婦人科專門大家病院も近時唯一の子宮病療法として皆此座藥療法を用ゐつゝあり

本舖 東京市下谷區下谷坂町壹番地(振替口座東京壹八貳參四番) 藥劑士 三原金太郎

▲宇治茶直接小賣▼

拙家製品ノ眞價ニ就テハ世已ニ定論アリ左記手續ニヨリ注文ヲ乞フ

販賣手續

(一)無料ニテ注文シ送金ノ出來ル便法ハ御便利ノ郵便局ニテ振替貯金拂込用紙ト云フヲ受ラレ拙家ノ住所及ビ口座番號一〇〇四番等ヲ記シ裏面ニ御入用ノ茶名斤數其他ノ用事ヲ記入シ代金ニ添ヘ差出サルレバ該金員等ハ直チニ拙家ヘ届キマス故ニ早速物品ヲ郵送シマス至極安全ニ便利デアリマス此ノ用紙ハ拙家ヘ御申越アレバ何枚ニテモ送リマス

(二)品物ト代金ト引替ニテハ送品シマス故ニ御入用ノ茶名斤數ヲはがきニテ御申越アレバ直チニ代金引替小包郵便ニテ送リマス

(三)送賃無料代價一圓以上御注文アレバ小包料ハ拙家ニテ自辨ス臺灣及清韓ト樺太ハ小包一個ニ付キ二十錢申受ク

經濟ヲ重ゼラルヽ婦人ハ一讀アレ

▲宇治茶製造元小包販賣ノ元祖

山城綴喜郡草內村 振替貯金口座番號 東京壹〇〇四番 大阪貳〇五五番

七碗堂 古川專太郎

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雪中松

大口鯛二選評

かきりなき君が八千代のこもるらん雪の中なる松のむらたち　青森　榊ひさ

ふりつもる雪にも千代のかけ見えて緑さかゆる松はめでたき　京都　岩室駒子

柱ともならむちからをふりつもる雪に見せたる軒の若松　山口　鷹田ヨシ

ゆたかなるみゆきつもりてわかまつのみどりいろますとしそめてたき　京都　中村きぬ

あきらけく治まるみ代のためしとてゆたかにつもる松の白雪　青森　田島愛子

ふる雪の色もかはらぬ松こそは雄々しきくにの姿なるらめ　千葉　宇佐美こま子

つもるかと見れはしつれてひめ松のみさをは雪にあらはれにけり　靜岡　彦阪清

今年亦ゆたけき年を仰くかな門松に咲く六ツの花びら　佐賀　田村幸子

朝日さす高根の松に白雪のつもりてうれし年の始めに　長崎　本田梨須

うたはれて榮えありともしら雪のつもれる松に千代の色みゆ　山梨　小尾玉代子

岩がねはうつもれはてゝ山松のゆきに根さすと見ゆるけさかな　東京　岡田春子

美くしく操もたかき松か枝につもれる雪を仰き見るかな　京都　若山きし子

限なき御代のさかえと仰くかな此の門松につもる白雪　佐賀　田村梅能

君が代はみ雪の中にいろまさる松の榮えの限なくして　石川　寺本篤子

降る雪をしのきて立てる松にこそ千年へぬへきいろは見えけれ　青森　田島正子

色かへぬ常盤の松に降り積る雪そ御國をうるはしにける　東京　福原かほる

立かへる年のはじめをことほきてゆきの花さく門の松かな　北海道　五十嵐やす子

常磐なる松のみとりは白妙にふりつむ雪のそむろなるらん　山口　末田竹子

年をへて杖つく庭の老松にけさおもしろく雪そつもれる　鹿兒島　松村壽賀子

千とせへん色は見えけり降りつもる雪にたゆまぬ庭の若松　山口　末田貞節子

ふりつもるゆきのなかにもいろかへぬみとりそまつのみさをなりける　靜岡　浮洲德子

ときはなる松につもれるゆきみれば花も紅葉もおよばざりけり　神奈川　鈴木まつ子

君が代にたくへん松のふかみどりつむ白雪に色はえにけり　靜岡　齋田とめ子

ふる雪のつもれはつもるまゝにして幾世へぬらん相生の松　茨城　福田喜代子

ふる雪にたゆまぬ松の姿こそ大和男子のみさをなるらめ　大分　桂木靜子

降る雪を凌きて松はさらに又きよき千年の色を見えける　岡山　森島古野

われもまたうたひて見はや松か枝に雪おもしろくつもるけしきを　愛知　木俣六女子

君が代のちよしめゆひし門松にゆたかにつもるけさの雪かな　岐阜　日下部酉

つむ雪にいよいよみさをのあらはれて年經る松のたちさかえつゝ　山口　内藤まさ子

ふりつもるゆきにいよいよ色まさるまつにもしるし御代のさかえは　京都　中村ふじ子

ふる年の雪そのまゝの山松をまたあたらしく見そなはすらん　佐賀　清水まつ

みぬ人につけむことはもなかりけり雪おもしろき千代の松原　福岡　田代ミキ

長くも大内山の雪の朝松の位の色まさるらん　東京　山村直子

さかえゆく御代をことほく姿かな雪をいたゝく御園生の松　三重　西山ひさゑ

靜かにもつもりやすらん庭の松ましろになりぬ雪のあけほの　三河　山内經子

門ごとに御代をことほぐひめ小まつふりつむ雪をかざしにはして　東京　奥村段子

あらたまの年のはじめにめつらしく雪の中にも松かざりして　東京　久保たみ子

數しれず園におひそふわかまつの枝おもけにも雪そつもれる　廣島　金原ナチ

雪ふりてましろにみゆる老松もちとせのいろはかくれざりけり　兵庫　河本粂

ゆたかなる年の光も見ゆるかなたわゝに積る松のしら雪　福岡　北原瑞子

白ゆきは梢に高くつもれともみとり變らぬ千代の老松　青森　留目うた

はちうゑの小松の雪をそのまゝにしばしさゝげん床の御かけに　呉市　竹入男子

ものゝふの鏡とそ見むふりつもる雪にたゆまぬ老松の操　京都　岡澤仲

ふりつもるゆきのおもになひたゝきて小まつおいまつ年むかふらん　長野　關谷與市

雪のうちに鶴の巣こもる老松は幾千代かけてたちさかゆらん　埼玉　森田鳳外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

—俳句—

天　播磨　長田つね

初夢のさむれば寒き蒲團かな

地　岩代　長谷川吉野子

骨牌會呉越の人も混りけり

人　大分　桂木靜子

雪中の松や御國の男ぶり

秀逸

元日や松に國旗のひるがへる　東京　中山由子
元日や晴れ着にかゝり松の露　播磨　長田つれ子
元日や松おのづから風そよぐ　東京　芳賀りゆ
元日に心の闇のなかりける　下野　黒須輝子
元日の松並びけり滊車の道　青森　竹林秋子
客に來て少しも取れぬ加留多設　東京　芳須りゆ
書初めの巧みを競ふ姉妹かな　下野　黒須菊子
晝は羽子夜は加留多の忙しき　靜岡　齋田とめ子
追羽子や光琳の袖土佐が描　三重　西山ひさゑ
山の端の社尊し初がすみ　東京　牧のえ子
年賀狀開けば梅のこぼれけり　岡山　清水梅子
白石は三歳にして餘はじめ　三重　西山數子

新體詩

一等

雛小屋　香川　瀬高やす子

汝が年なりとこと更に
可愛き手にて立てられし
小屋の戸口の松陰に
色あざやけき朱の冠
大華生羽いくかさね
極尾ぞながき雄鷄と
ならびて立てる雌鷄に
餌をやる童眉目美しき。

評。あざやかなり

二等

夜三更　京都　露緒子

ひとしきり木枯ふく、星くづ瞬く、
大路の夜、三更——萬象眠る。
たちまち、馳せ來る人のけはひ
若き女聲——「ゆるし玉へ……」と
絹さくごと。
「いかで……汝つみびと、にくきにくき僞人……いて」と
荒鷲の小雀摑む鋭き爪。
あな無慘。勝誇る荒息吹。
火を吐く山の呻きごゑ
胸痛く夜ぞ更にける。

評。才藻咳發、餘致老練

三等

塵の花瓶　東京　ゆかり女

なにがなと立ちいづれば
ものみなのあやしき光
匠えかへる心たゆたひにき
つめたき日かげにかくれて
南天の實や丶赤らめる
幼き人よ、をさなき戀よ
手折らむ手いたくもふるふ。
吃々と鳴く鷄やせて
冬枯れぬあゝしづが庭
——花瓶は塵にうづみぬ。

評。秀逸

佳作

わが涙　上野　春野香子

心なる花を啄け
蕩の香をあさり倦みて
うつり去る君は啄木鳥
空ろなる胸の野つかさ
立てりわが魂の墳
背き往く人をしなほも
惜み得ぬ弱き思へば
おのづから涙は流る
わが涙尊きものと
自らの心なげけど。

評　第九十の兩聯想餘ともに未し。再考を要す。

犬の遠吠　青森　竹林秋子

犬の遠吠牛の刻に
樂しき夢はやぶられて
胸はくろしく血は燃えぬ
走千里戀人のもと
車の音に耳すませば
ふくろの聲氣味悪く
鎮守の林にひゞくなり
かくてしづ〳〵と夜は明ぬ

霜の朝　岡山　八木清子

夜あらしすさむ音やみて
靜きあしたのめさむれば
あら一面の銀世界
喜び勇む小學生
雀は餌をば求めんと
チヨツ〳〵と忙しげに
わがまへをとびおどる。

新年　横濱　鈴木まつ子

うららかに年の初日の
うつろひて常はわびしき
わがいほも何とはなしに
長閑なり軒端になける
小雀の千代となく音も
しほしらや日は輝やかに

○題外寡聞詩は次號に發表す

讀者倶樂部

■記者より　別項にも注意してある通り、今度だけ文苑は各囑托選者の手を經ないで、掲載いたしましたが次號からは此迄と同じやうに致すので御座いますから爲思召て益々振つて應募下さるゝやう願ひます。此號には和歌は新年雜詠だけを載せる事にしましたが別に雪中松の披露も厶いますし、旁々次號でも差支のない者は皆次號に廻しました。決して沒書にしたのでは無いと云ふ事を御含置下さいまし。

■左記の愛讀者諸姉から懇ろなる年賀狀を戴きましたが編輯多忙の爲、別に御返しを致しませんでした。

瀬高やす子、平野まさ子、小島駒子、佐野眞子
西村きよ子、十合貫榮子、莊司種子、四村長子
金原なを子、飯塚きよ子、清水梅子、山口理勢子
鈴木まつ子、伏島たき子、八木清子、鈴木久良子
岡田正野子、下岡松枝子、鈴木榮子、鷹田よし子
市川みどり、西山ひさゑ、山内經子、武田つる子
但村はつ子、小林かめ子、末田竹子、阿部秀子
眞田壽、小野邦、桂木靜子、藤野錠子
横川明子、竹入勇子、石垣やゑ子、以上。

混雜に取まぎれて或は見落し書落しがあるかも知れませんが、若し記載洩れの方が厶いましたら御見免しを願ひます。其他記者に直接に下すつた向へは御返事もあげた筈ですから、自然誌には御披露致さないのも厶いませうと存じます。

■舊臘中、三河の山内經子様から編輯局へ宛て丶紀念繪端書を澤山御送り下さいました。忙がしいので御答禮も致しませんでした。茲に御禮を申ます。

■讀者より、圓秀百佳選に當選いたし候趣にて中村大人の御染筆になりし短冊御贈り被下誠にわりがたく身にあまる光榮といたくよろこび居り候まづは御禮迄なほ本年よりは毎號投稿諸姉の御うつし糸御掲げ被下まじく候哉御願ひ申上候(横川明子)▼丁寧な御禮で痛入ります、なほ諸姉の御寫眞は誰方も御遠慮がちで、御送り下さらないので、載せられません。先づ貴女が卒先して御送り下さいませんか(記者)

■先日は圓秀百佳選に當選の處、中村秋香氏の染筆を送り下され難有奉納候委細の御禮は何れ後より(藤野錠子)

■懸賞文苑、當選御禮。(小林龜子、桂木勝子)

△注意△　懸賞當選者にして未だ懸賞品發送洩の分に對しては、遲くも本月中には差出可申候間、左樣御承知下され度候(發送掛)

雜報

吹留眞綿とは如何なる物か　其儘着物や羽織に讀入るゝ樣に拵へた物で決して吹出てか仕ないとも云ふので其名を附たものだ在來は吹出を防ぐ爲に古拔眞綿を使つた者で不潔で衞生によからう筈は無論ないのですが此の吹留眞綿は最上等の新綿で拵へた者で清潔なるは勿論衞生にも經濟にも叶つて居る中々古き歷史を以たもので約十年程前から試製を始め其當時は三越なぞへ賣込うとして苦心したるが同店では顧みもしなかつたのだが製造家の熱心と製品も漸次に改善されたので同店でも大いに其眞價を認め販賣する事を承諾したので爾來世間に好評を博し今日の盛況を見るに到つたのである

新年はおめでたう！

御年禮亦は新年宴會に

御出かけの際は、必らず御忘れなく守田家製の寶丹を御懷中あれかし、寶丹は芳香を放ち、口中を清め、消化を助け、酒毒を解しさふらふぞ

寶丹本舖　東京上野(下谷區)池之端仲町

守田治兵衛敬白

意匠井製版　東京右文館

腦病　精神病　神經病

東京府下○龜戸町　かめゐど停車場ヨリ約十丁

加命堂腦病院

電話浪花二五五二

院長　奈良林愼次郎

院長　醫學博士　榊順次郎
副　醫學士　久保徳太郎
副　醫學士　田代謹二

婦人科產科　毎日午前診察
婦人科的外科　外國留學中
婦人生殖器病　泌尿器病及內科　一般　火木土午後診察

◉施診火木土午後一時至二時

婦人科產科榊病院

麹町三番町三三(電話番町三九五)

內科專門　杏雲堂醫院

神田區駿河臺　電本一六六九

院長醫學博士　佐々木政吉

小兒科專門

腺病體質(瘰癧症)
小兒胃腸障害(脾疳)
腹膜炎(脹滿)
小兒皮膚病

ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄

東京日本橋數寄屋町(呉服橋外)電本百八十

東洋內科醫院

院長診察月水金木前　松田醫學士診察火土前　窮者施診火木前　入院診斷隨時應需　松田林兩副長は目下當院に在勤

東京神田區駿河臺鈴木町二(御茶水橋畔)

電本八八八(病院用)　八九八(私宅用)

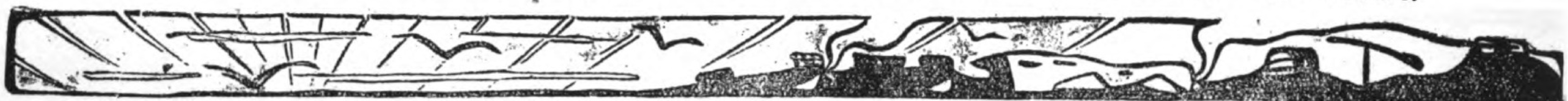
院長　醫學士　高田畊安

南湖院

神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)

河野副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

目方ウリ 大俵炭
かます入 堅土釜切炭
神田三崎川岸 戸塚商店 電本參貳〇八番

耳鼻咽喉 病診療
入院應需
淺草區向柳原町二丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院 電話下谷壹壹三〇

年始御進物用
御勅題模様半ゑり、帛紗、帯上、

恭賀新年
半ゑりは赤のれんに限る
本店 神田表神保町壱番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上
御年玉用品色々取揃へ申候

皮膚特効 美白新劑 チプリ化粧液

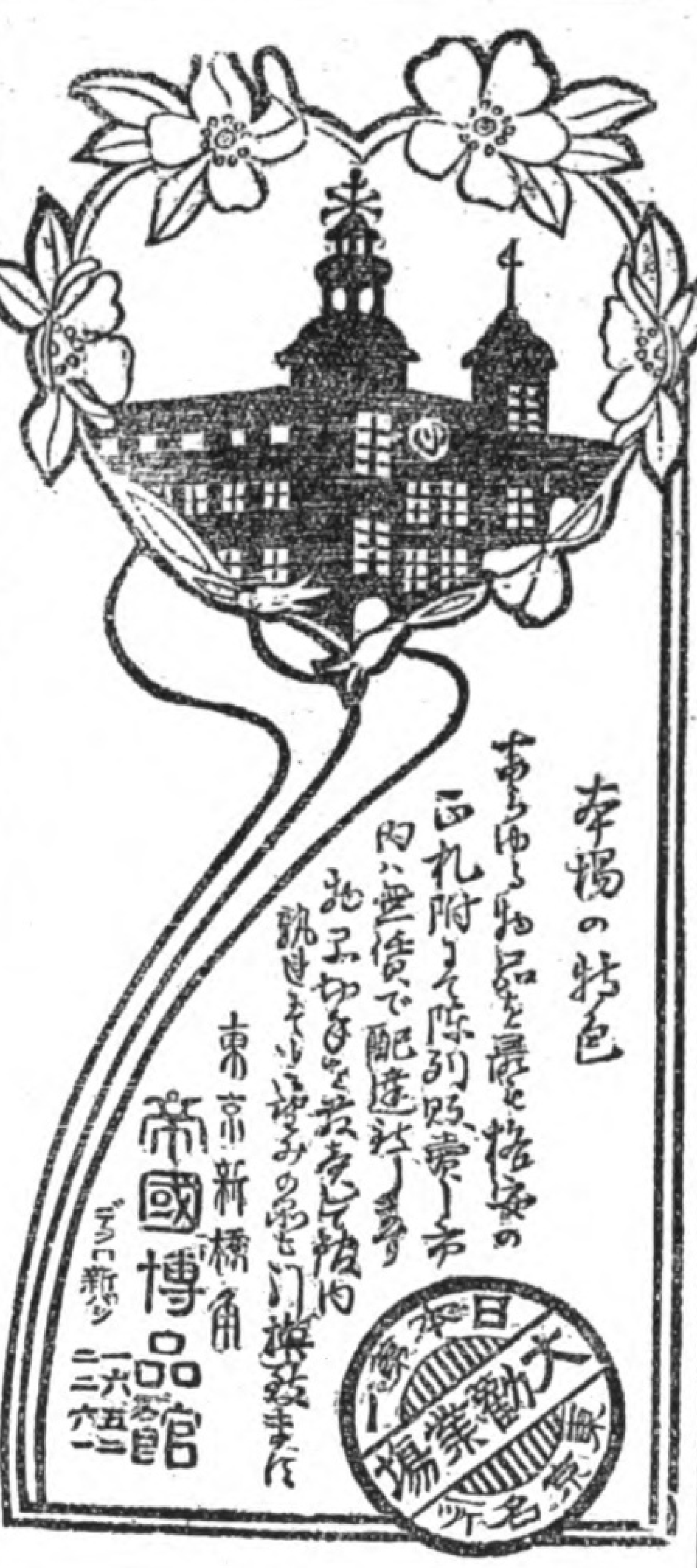
小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢

◉本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を緻密にし自然白色艶麗の美顔たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顔ノアレ」等に最も奇効あり
◉効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
◉東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（四瓶迄）相添へ本舗へ御注文あれば直送す
日本一手販賣 東京日本橋區本石町 松澤常吉

東京神田美土代町三丁目十七番地
内科一般 午前宅診 午後往診 板垣亨
電話本局貳千九百七十番

ちゞれ毛 赤毛 くせ毛
白毛を未前に防ぐ特効あり
專賣特許願の藥にて姿御得意に試みし處一人として全治せぬ方なき奇驗あり困難者に告げたし往復はがきにて御照會あれ詳報す
東京市京橋區桶町四（女髮結業）山岡さだ子

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎



腰卷附婦人股引
東京勸業博覽會賞牌受領
腰卷兼用の御婦人股引で其の履き方は上圖の如く合せ目を前にして御結びになるので温く履き心地も體裁もよく決して腰冷等の憂ひなく冬季防寒實用上是れに上越すものはなし
定價中長壹圓五錢大長壹圓十五錢色白、赤、桃色、鼠、送費内地二足迄八錢五足迄以上當店持

ねびるしらず製造發賣元
東京日本橋區ふきや町十番地（電話浪花二三四八番）
佃屋シヤツ店
特約販賣元 東京京橋區南傳馬町貳角（電本局一八二六）
ツクダヤシヤツ店
横濱市伊勢佐木町壹
岡田屋商店

恭賀新年
御年玉用には化粧箱
一二本入 半打入 壹打入

大黒天印 宮崎葡萄液
宮崎葡萄液は理學博士藥學博士長井藥學博士下山兩先生の指導の下に創製せしものにして恰かも葡萄の實を食するが如く毫も酒精分を含まず腦を刺撃するの廢れなく香味共に佳良にして消化力を助け血を増し肉を肥やし日常これを飲用せば偉大の効を奏し衛生上必須の飲料なり
▲ブランデー、ウヰスキー等に混ぜ飲用せば其の味又最も妙なり
▲御婦人又は酒を嗜まざる人の交際場裡に最適當の好飲料なり定價大壜一打四圓小壜二圓三十錢
宮内省御用達
東京市日本橋區通旅籠町（電話浪花八七〇）振替口座一九三七番
發賣元 甲斐産商店

めりんす友禪
古渡り唐さん
其外呉服一式格安物
東京日本橋人形町通よし[illegible]
赤のれん
おまなや本店
電話浪花四三四五

專賣特許 實用新案登錄
衣裳中入 吹留眞綿（すゐだしとめまわた）
三越呉服店

白木屋、松屋、銀座越後屋呉服店にて實地使用販賣其他重なる呉服店綿店にて販賣す
吹留眞綿は三越呉服店多年の經驗によれば衛生と經濟とを兼ね備へ且つ實用向きにしていかなる貴人の御使用にも恥しからぬものとして販賣せられ尚白木屋松屋呉服店其他重なる呉服店にて日々好評を以て迎へられつゝあり

洗濯の出來る眞綿細工
腹卷。腰卷。男女股引。肌襦袢。チヨッキ。

「途上兩女の談話」此頃は大變お顔色がよくつてよ ハイ難有ふ此程より眞綿で出來た腰巻を買つて締めて居ります がそれからこちらへ大分身體も丈夫になりまして今では離すことはできませんのよ マーよくして似た事もあるもので姿しも此の間から眞綿の肌襦袢を着て見ましたが暖かで着工合もよいものだからつい御同前様なのよ。ハイ汚れたら幾度でも洗濯が出來ますわ。ソー上からは少しも分りませんのでね。

御婦人腰巻 御婦人はだ着
極寒要品

御親交の方々への御進物にも適當

定價郵税共				
腹卷	一圓五錢	特製	一圓五十錢
腰卷	一圓六十五錢	特製	二圓
はだ着	二圓五十錢	特製	三圓
半股引	二圓五十錢	特製	三圓
チヨッキ小	二圓	大	二圓八十錢

實證 毎夜就寢後三四回便通ありし人此腹巻を用ひし以來安眠する事を得日に健康を増さしめられつゝありと云ふ生れなき者ひ兒女を望む方は攝生療養上の儲かに其の要品なり

○受賣御望の御方は特約店へ御申込を乞ふ

○綿問屋 東京市京橋區銀座四丁目 振替口座九四三二 大和屋商店 電話新橋一七七六
堺綿絲問屋 東京芝區西久保葺手町 さかいや商店 電話新橋一五四九
綿綿問屋 東京本郷區本郷四丁目 振替口座四七八六 桝屋商店 電話下谷二六五九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區蠣殼町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用 ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシャツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶して拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です

定價 拾貳号入金拾五錢 六号入金八錢 袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
洗濯ワツセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元 三友商會

最上醬油 於墺國博覽會 名譽大賞牌受領 キハク印

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 略號(キハク)又(ハク)

東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衛

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日步 一錢
小口當座預金 同日步 壹錢參厘

東京市麴町區錢瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 三、四一〇番 (特)三七一番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

本品は高尚なる麝香に愛すべきスミレの香料を多量に含むおゆへ其の香氣馥郁として其の美はざる一大特点を有す
東京日本橋本石町
本舖 井上吉兵衛

妾事薄毛に種々藥を試みしもなく効く醫學博士令夫人より本藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮状を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四 河村愛子

故 國木田獨步著 小杉未醒氏裝釘
欺かざるの記
前編 定價金貳圓五拾錢 一月中特價金貳圓 送料金拾五錢
是れ實在せる永劫の意識に窮極を求めし故獨步が直觀錄なり
發兌元 東京京橋區南鍋町一丁目 振替貯金口座八五三番 隆文館

東京美術學校選輯
國民畫鑑
千有餘年間の名品傑作を網羅す 其總數壹百點

美術は一國の文化を代表し、國民の品性を表明するものなるが故に、一般國民の美術思想の發達せると否とによりて其國の文野を知るべき也、されば美術思想の普及を計るの急務なること言を俟たず㐫院夙に眞美大觀、東洋美術大觀等の高價なる大美術書を發行して上流國民の美術思想涵養に資する所ありたれども未だ一般國民の需用に適應すべき低廉にして而も各時代の代表的傑作を網羅せるものを缺如せるを遺憾とせしが、今回東京美術學校に於て本書を選輯せられ、其發行を弊院に命せらる、其目的一に國民一般の美術思想を涵養するの資に供せんとするに在るが故に、價格極めて低廉なるを旨としたり、而も古今千餘年間に於ける名品傑作殆んど網羅せられざるなく、簡明なる美術史亦に之に伴へり、而して印刷は弊院獨得の長技を以てす、其鮮明固より言ふを俟たざる也、全國中小學校の參考書たるべきは勿論、一般國民も亦必ず本書の一部を座右に備へて大に美術思想を養成せらるべし、美術思想なき國民は即ち品位なき國民なるを以て也、況んや東洋美術國の稱ある日本國民に於てをや

定價金八圓、但し豫約期限中(本月三十日迄)特價左の通りとす、是れ美術書として空前絕後の最低廉價也

價格及特別減價
甲=前金申込は金五圓五拾錢、荷造遞送料金六拾五錢
乙=申込と同時に豫約金壹圓を又書冊引換に金五圓五拾錢と荷造遞送料金六拾五錢とを支拂はるゝものとす

挿畫見本
郵券拾七錢御送付次第豫約に關する詳細の規則と共に送付す
本書の發行數固より無限なる能はず、希望者は一刻をも閑却せらるべからず

發行所 東京市京橋區新肴町十三番地 審美書院
電話新橋三〇五五番 振替貯金口座三五八七番

明治四十二年一月廿日發行(每月五日廿日二回)
(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵稅不要)(廣告料一行金六拾錢)
編輯人 永持德一
發行兼印刷人 山澤俊夫
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町秀英舍工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

◎新年禮會　去十三日午後二時半より九段階行社樓上に於て新年禮會を開催當日名譽會員東伏見宮妃殿下御臺臨あらせられ會長岩倉公爵夫人を始め理事近衛前公爵夫人、毛利前公爵夫人、岡部子爵夫人谷子爵夫人、顧問二條公爵、岡部子爵、松平男爵、會計監督佐藤少將、各評議員東京支部長、同幹事、近縣支部長等併せて約二百名出席せられ先づ餘興場に於て講談（義士銘々傳、伊東燕尾）、筑前琵琶（那須與一、小楠公、橘友子）劍舞（詩吟藤田正春、劍舞藤田清香女）等各種餘興あり右終つて四時會場を改め禮會を開く一同席定るや岩倉會長名譽會員殿下に對し年始の辭を奉ると同時に一同敬禮を表し尚會長には會衆一同に對し年始の辭を述べらるゝに對し一同は更に敬禮を表し之にて式を終り宴會を開き散會せしは午後四時なりき。

◎梨本宮妃殿下奉送　本會名譽會員梨本宮妃殿下には御見學の爲め去る十三日午前十時新橋驛發列車にて御渡歐の途に就かせ給へり。當日本會よりの奉送者會長岩倉公爵夫人始め左の如し。

德川壽子、岡部坻子、谷玖滿子、千家俊子、新山雅樂子、豐島文子、阪井春子、鍋島輝子、戸田時子、龜井眞州子三井榮子、小池元子、押川愛子、阿部篤子、濱尾作子、關郁子、東鄕鐵子、松平須磨子、鳩山春子、三井五十子、淸浦錬子、岩佐千賀子、高木富子、伊集院繁子、渡邊いね子、鍋島榮子

尚濱尾、東鄕兩評議員は阿部事務員を伴ひ横濱埠頭まで本會を代表し御見送申上げられたり。

栃木支部遊説記
第三回報告

野中彌智子

芳賀郡遊說日誌

十一月十五日　午前八時七分栃木驛發列車にて戸田官房同行芳賀郡久下田に向ふ小山驛に下車之より乘替茨城縣下館驛に下車久下田下館間二里の道程を腕車にて鶴見飯山兩幹事の出迎を受け一同車を列れ先方に着せしは十一時卅分會場小學校に到る青木幹事部長同顧問水島郡書記出張待合されたり午後二時開會聽衆三百餘名小倉町長開會辭青木顧問の演說了て講話四時卅分閉會後遺族に菓子を贈與し夫より幹事會員有志者の催しに係る茶話會に臨席せり此總員三四十名幹事部一行は歸員自分と戸田氏は鶴見幹事邸に一泊、因記當日講話會に付小倉町長白石學務委員非常に斡旋の勞を執られたり。

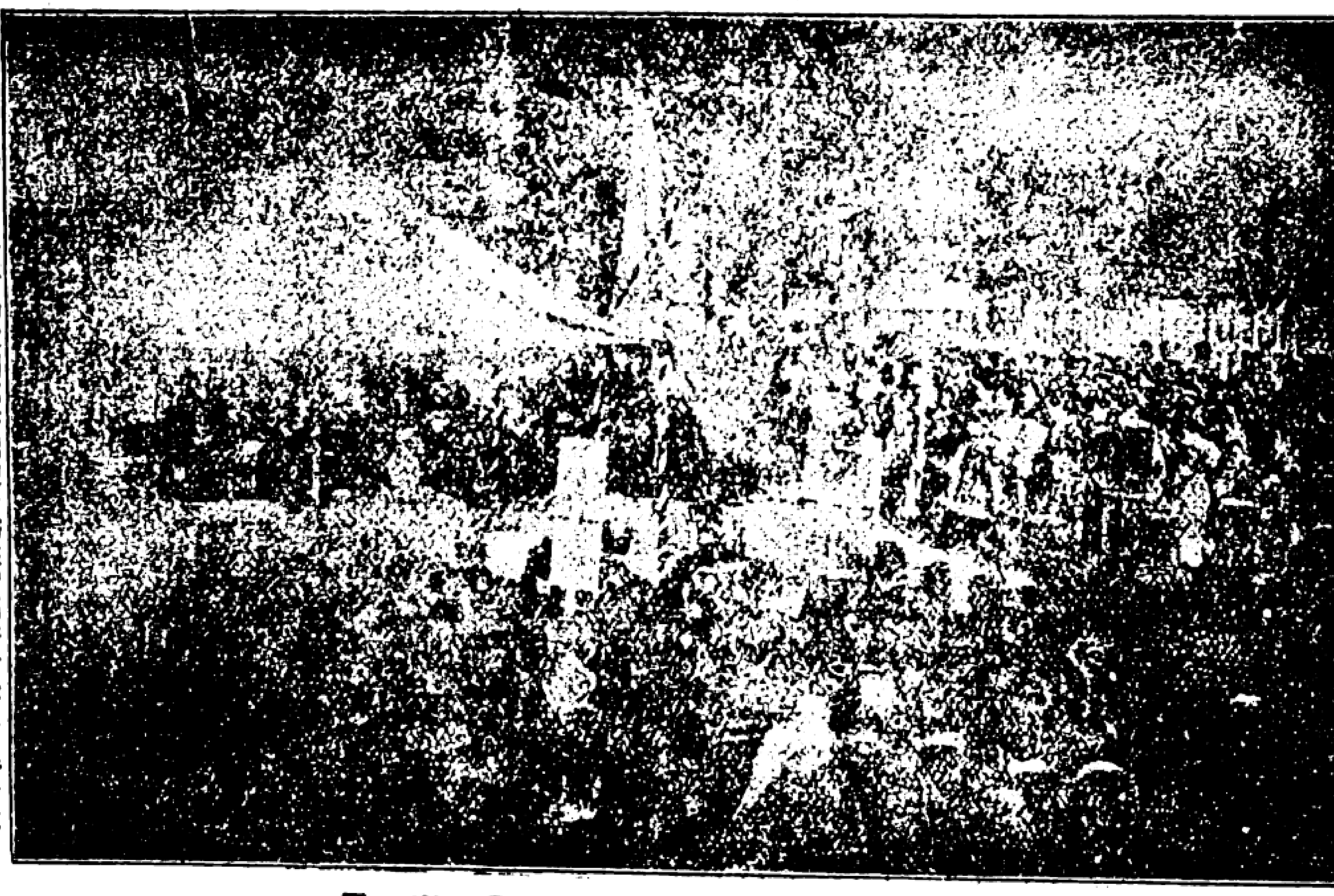
十一月十六日　午前十時水島郡書記迎の爲來着戸田官房同行腕車を驅り幹事部所在地眞岡町に向ふ、久下田眞岡間道程二里岡部滿川兩幹事途中迄出迎はれたり岡部氏別莊に入る間もなく中山支部長安井中山兩幹事田口官房來着午後二時小學校に於て開會聽衆二百五十餘名楡井町長開會辭青木顧問の演說了て講話四時卅分閉會後幹事會員二三十名の催に係る茶話會に臨め支部長一行は歸宮自分と戸田氏は岡部氏邸に一泊せり因記當地熱心者久保幹事非常に斡旋の勞を執られたり

十一月十七日　午前八時青木幹事部長戸田水島兩氏同行腕車を列れ茂木町に向ふ眞岡茂木間道程六里水谷水沼片倉龜山幹事渡邊警察署長車上途中迄出迎はれ、十一時卅分着富豪家今井彦太郎氏邸に入る、間もなく支部より河合幹事來着午後二時小學校に於て開會聽衆六百餘名天谷助役開會辭了て講話四時卅分閉會後幹事會員五六十名の催に係る茶話會に臨めり一昨年の講話會に比し非常なる盛會なりき、因記當日講話會に付片倉龜山兩幹事渡邊警察署長大に斡旋の勞を執られたり

十一月十八日　午前十時河合幹事戸田官房青木幹事部長水島郡書記同行腕車にて市羽村に向ふ、藤平石川兩幹事車上途中迄出迎はれ十一時着會場小學校に入る該校舍は昨今新築中にて未開校式今回講話會に付綠門を建設し萬國旗を張廻し村長始め一村內の有志者一致協力非常に斡旋の勞を執られ又當村富豪家にして昨今宇都宮在勤中の石川中尉(幸太郎)氏態々歸郷大に盡力され、聽衆五百餘名村長開會辭了て講話四時卅分閉會後幹事會員有志者五六十名の催しに係る茶話會の席上に於て會員募集方を依賴し夫より石川氏の案內にて青木幹事部長河合幹事と共に同氏邸に入り一泊、因記當日石川唯一郎氏夫妻非常に斡旋の勞を執られたり。

十一月十九日　午前九時出發河合幹事戸田事務員青木幹事部長水島郡書記市羽より石川幹事同行水橋村に向ふ途中富豪家藤平氏(夫人幹事)邸に入り昨今新築の戰死令息の廟を一覽し茶菓の饗應を受け直に腕車を驅り目的地に着せしは十一時卅分頃なりき富豪家に入り晝餐の饗應を受け一同紀念の撮影をなし午後二時小學校に於て開會農繁の時季なれども聽衆九百餘名茂木町警察署長渡邊氏遠路出張されたり大藤村長開會辭了て講話四時五十分閉會是にて青木幹事部長一行に告別河合幹事戸田氏同行歸宮の途に就けり水橋宇都宮間道程八里鬼怒川の河岸を腕車にて着宮せしは九時卅分頃なりき手塚屋旅館に宿泊せり

十一月廿日　午前八時中山幹事來宿直に同行腕車にて今回當地に新に設置の十四師團開廳式場に到る暫時休憩室に入り待受鹿定刻の十時を報ずるや中山支部長樋口副長安井植松中山幹事を始め其他十四五名前列に郡部より出張の幹事部長幹事も一同入場參列之にて式は開始されたり中山知事登壇式辭朗讀了て降壇さるゝや鮫島師團長代登壇答辭演說あり、當日は天氣快晴微風だになく地は見渡す限りの新開の曠原遙かに遠く望めは二荒高原の二靈山巍巍峩として相連り忠心軍隊を歡迎するが如し式場の周圍は見物人を以て埋め、其數幾十萬なるを知らず、眞に空前絕後の盛況なりき、之にて式は終了す被參列の男女一同宴會席に入り立食の饗應を受け一同歡を盡して散會せしは午後一時卅分頃なりき。



鹿兒島支部第六回總會の光景　（前號參照）

上都賀郡遊說日誌

十一月廿一日　午前五時宇都宮發列車にて安井幹野河合幹事戸田官房同行上都賀郡足尾町に向ふ鹿沼驛より幹家關郡書記同乘日光に下車之より細尾迄腕車日光細尾間道程二里細尾栃木平間三里の難關を一同徒歩すべき約束の所開會時刻に後るゝ虞れあり山籠にて栃木平に降るや銅山古河氏よりの客車に乘込み急き足尾に着せしは午後二時川路鑛業所重役夫人其他二三名の出迎を受け直に會場に至る筈なりしが當地も師團歡迎の爲町長始め盡力者は悉く出宮當日は開會の運ひに至らず泉屋旅館に投宿石田三上山口松本幹事來訪

十一月廿二日　午前九時銅山重役川路喜三郎氏夫妻三上助役來訪諸般の打合せを爲し同十時通洞小學校に於て開會、聽衆二百五十名三上助役開會辭了て講話午時閉會一旦歸宿午後一時卅分安井幹野河合幹事戸田官房幹家關郡書記迎の爲來宿川路令夫人同行客車にて本山に到る會場本願寺別院に入る二時開會聽衆三百餘名三上助役開會辭了て講話四時四十五分閉會當日山瀧に於て熱心者金子學三郎氏態々出張夜會の懇請ありたれども時間の都合上其運ひに至らず紀念の撮影をなし時機を待更に開會の約をなし告別直に鑛業町を一覽し夫より渡良瀨川河岸なる古河氏の俱樂部に於て晚餐の饗應を受け席上蓄音機吹奏主人側は川路喜三郎氏夫妻小島山村兩夫人田所警察署長西牧氏夫妻衣笠鑑太郎氏等側は安井幹野河合幹事戸田幹家關兩氏と自分となり主客共に歡を盡して散會せしは十時過なりき、泉屋に宿泊、因記川路氏は安井幹事の知人にて今回講話會開けしは川路氏夫妻斡旋に基因せり

十一月廿三日(旅行日)午前八時出發安井幹野河合幹事戸田幹家關兩幹事務員同行歸途は方面を變更し中禪寺道の足尾の峻嶮を徒歩にて歸途に就けり鑛業所前迄客車並にて見送りの川路氏夫妻田所警察署長に告別し同署員の厚意に因り山田久保田兩巡査川路氏より注意の人夫三名都合十一名草鞋掛の扮裝にて山に掛るや見上れば峻岳雲に聳えて屹立し木梢を傳ふ猿猴の巧も消躊つ可らず一歩を登れば一步は更に危く一嶺を攀れば一嶺は更に險し、若一步誤れば下は千仭の岩石溪谷或は巍峨として屹立せる大石の間を行けども〳〵愈險且遠し加之烈風吹雪天際を摩せる頭上左右の兩嶽より飛來せる砂塵射るが如し其危險言語に絕す彼の旅順大孤山の石戰も斯くやと降雪益甚し彼の滿洲軍霜中轉戰の疾苦も聊か思ひ知られたり「武士のうへを思へば足尾山嵐の吹雪も何か厭はん」興を鼓して遂に絕頂に達すれば大木の間より眼下に中禪寺の湖水見えたる時の愉快さ一同積雪にて喉を潤し欣然飛躍湖畔に降れば暴風激浪の爲二荒山麓迄渡航の船止め止むを得ず風雪を凌ぎ怒濤の餘波左顧を濡しくれり〳〵し湖畔を辿り〳〵て中宮祠に到るや中禪寺旅館主米屋事井上鈴吉氏同所駐在巡査並に日光町より迎の爲來着の巡査同行籠屋を伴ひ出迎ひ與れ一同籠にて同旅館に着せしは午後三時卅分頃なりき急ぎ食事を濟せ足尾より同行されし久保田、山田兩巡査人夫三名に送別四時出發中禪寺より馬返迄籠是より腕車にて日光町に着せしは七時卅分頃なりき小西別館に投宿小泉警視來訪當日は一行の上を案じ足尾日光兩警察間は電話の掛け續けとの言引續き藤堂町長夫妻金谷小西小泉其他の幹事十四五名來訪

十一月廿四日　午前十時安井幹野河合幹事戸田幹家關兩氏同行小泉警視藤堂町長の案內にて日光廟祭內社務所に於て幹事會員三四十名の催しなる茶話會に臨み一場の講話を爲せり間もなく中山支部長植松幹事來着臨席午後二時樓上に於て開會聽衆四百名餘藤堂町長開會辭了て講話四時五十分閉會後一旦小西別館に引揚六時日光發列車にて小西金谷鹽谷吉川植田幹事植田事務員に見送られ一同歸宮の途に就けり鹿沼驛にて幹家關郡書記に告別着宮せしは七時卅分頃なりき手塚屋旅館に宿泊せり是にて當栃木支部內遊說終了

十一月廿五日　午後二時知事官舍に於て催したる送別會に臨み懇談快談數刻に涉り六時四十分宇都宮發上り列車にて樋口副長及川合夫人安井植松中山幹事河合幹月行幾小山幹事本多幹事部長本多市長山內主事に見送られ歸京の途に就けり十時着京

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部近況

△熊本支部▽

□初會の概況　當支部本年の初會は去六日午後零時三十分より、本縣々會議場に於て開催せるか來會者は川路顧問梶山相談役川路支部長西島評議員を始め幹事以下八百餘名支部よりは河内山主事、吉田島田阪田各事務員出席し來賓は縣高等官赤十字社支部員新聞記者僧侶有志家等三十餘名にして場内殆んと餘地なきに至れる盛況なりき、其概略を舉れば、正面の壇上に淨几を置き上に、總裁殿下の御眞影を奉し、後方には繡帳を繞らし前面には花瓶に松と竹とを挿し天井には縱横に大小の萬國旗を吊し又赤と黄との布片を以て桂を包纏せり、定刻に至れば河内山主事開會を報し先つ御眞影の覆々撤して一同敬禮奉拜北間君か代の奏樂あり、次に支部長評議員の挨拶ありかくて支部顧問は恭しく戊申の御詔勅を捧讀し續て詔勅の聖旨を丁寧懇切に訓諭せり次に河内山主事四十一年中の事務及會計並各地よりの祝電を報告せり終て安藤新也氏鷄冠山占領の一節を講演せしに其悲愴慘憺たる光景眼前にあるが如く滿座舉な感動せり而て福引及菓子包の配付を受け一同歡を盡して散會せしは午後五時頃なりき又當日は侯爵細川家の姫君靜子氏も從者を隨へて臨場せられたり。

△富山支部▽

□幹事部長會議　年醵金の整理及會員增募に關し客年十一月廿九日宇佐美支部長邸に於て幹事部長並幹事部主任事務員協議會を開催し、親しく協議する所ありしが同日午前十一時開會に先ち宇佐美支部顧問には永井參與と共に列席ありて婦人の心得等に付懇篤なる一場の訓示に次て宇佐美支部長の挨拶あり夫より引續會議に移り左の事項決議の後一同紀念撮影を爲し晝飯の饗應ありて散會せしは午後三時過なりき。

決議事項

一、會員年醵金は別表の通本年醵金は勿論前年度迄に未納となれる醵金の半額以上を本年十二月末日(四十一年)を期し徵收整理を爲し、支部へ納付のこと

二、前項整理の爲に別紙の通各分區其他職員へ依賴狀を發すること、尙同時に幹事部長よりも同樣の依賴狀を發すること

三、會員增募は來年三月末日を期し必ず豫定會員數に達せしむることに盡すこと

四、幹事部又は分區に於て每年一回會員總會を開くを本體とし、先づ第一着手として來春郡內の町たる分區より開催し同時に其區內遺族廢兵の者に對し、慰安を與ふるの方法を講すること但此場合に於ては本部より遊說員等の派遣を乞ふ見込

五、前各項の整理增募總會開催の爲め經費を要するときは幹事部の申立に依り支部に於て經濟の許す範圍に依り補助又は成績顯著たる効勞者に特別賞與の方法を講すること

六、遺族及廢兵者並に其家族中學資に乏しき者又は天災疾病等の爲、臨時救護を要する者なきや否を常に注意し若しあらば直に其情況を調査し支部へ報告して救濟の方法を講ずること

七、本會職員は勿論會員たる者は戊申詔の御主旨を奉戴し質素儉約を旨とし可成綿衣を纏ひ相互に奢侈を戒しむること

▽愛媛支部△

□東宇和郡幹事部多田村總會狀況　客月十三日多田尋常小學校講堂に於て愛國婦人會東宇和郡多田村在住の會員總會を開く來會者會員九十七名の外當幹事部より深田顧問、幹事末光ヌイ子同木瀨リメ子同宮瀨チアキ子事務員淸家過春、淸水與一郎の諸氏出會し來賓として同村郵便局長醫師小學校敎員幷有志者等五十餘名の參列あり同日午後一時を以て開會し君が代の奏樂に亞ぎ、幹事部長告辭、幹事、會員惣代の祝詞、事務員の事務報告あり

式終て深田顧問の本會趣旨目的沿革現況並一二の希望等約一時三十分間に亘り演述し、それより一同宴に移り其れより餘興として福引の催あり一同十二分の歡を盡し散會したるは午後四時半なりき、尙本日の總會に於て爾後每年一回の總會を開くことを決議せり。

クリーム
パ
東京 平尾分店

スミレ香水
東京 平尾分店

◉婦人病專門 院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三二四
櫻井醫院

新年奉拜賀候
流行ブローチ

1 拾八金眞珠入 金四拾五圓
2 拾八金拾圓より 赤銅製壹圓より
3 拾八金わらびの圖九圓より
4 拾八金金拾四圓より
5 拾八金眞珠入金拾貳圓より

●送料內地は拾貳錢臺灣及淸韓樺太は各三拾錢申受候
●爲替は日本橋大傳馬町郵便受所宛に願上候
右の外御好みに應じ確實を旨とし諸品共廉價調製可仕候間陸續御用命奉希上候

美術貴金屬細工袋物商
治
東京日本橋大傳馬町通り
澤田治助
長電話浪花二五六九番
振替口座一二二七二番

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)
婦人科產科 木村病院

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七八一番

小兒病一般
●京橋區南鍋町風月堂斜向
醫學士 福田謙之
●宅診午後(電話新四八八二)

◎婦人の福音◎老幼男女のお伽
高輪御殿御用
鯖江衛戍病院御用
村井弦齋先生御證明
醫學博士弘田長、吾妻勝剛、瀨川昌耆、榊順次郎各先生幷に產科婦人科女醫鷲山彌生先生御賞用
新案特許第一〇五七〇號
統監府特許第三六號
佐々木式お伽だんろ
は高尙優美構造堅牢にして破るゝなし中に普通の懷爐灰を入れ御座敷椅子上人力車及馬車にて腰を煖むれば溫暖春の如し其形平たき故に炬燵湯タンポ代用として最安全又携帶に便なれば汽車旅行の際是非必要の珍品而も十時間の費用僅に一錢なり
市內有名なる藥店荒物店三越松屋吳服店實業の日本社にもあり
此際二萬個限り絹天張一個四十錢サラサ張一個三十錢
地方送料二個迄十錢

お伽だんろ 安全哺乳器
製造元 佐々木商會
東京市麴町區飯田町四丁目廿二番地
(振替貯金口座一七八八三番)

足袋販賣廣告

一足袋は愛國婦人會東京支部授產場に於て軍人戰死者遺族並に廢兵家族の裁縫したるものにて尤も丁寧親切に調製してあります又直段も格別安く販賣致します

一足袋の地質は特に吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故御求の上御驗を願ひます

一足袋は裁縫教師として都下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は昨年來既に御使用の方々の間に好評を博し居ります

一足袋の種類は左表の外紺瓦斯織、コール天、あり外にシャツ袴下小兒胸掛(エップル)西洋前掛等も調製販賣致します

一純白絹天足袋は美麗なる箱入てあります故御進物等には最適當と思ひます

一市內に限り十足以上は送料を申受ません

東京市麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會東京支部
授產場販賣部
電話番町 五二〇 一、七四五
郵便振替口座 一五、一一四

足袋販賣價格略表

注意 (御誂別製は壹錢以上增、踵縫目なし貳錢增、單足袋は給より貳錢增、爪先三枚は貳錢五厘增、裏紋羽は壹錢五厘增)

文 種	紺雲齋底	紺石底	白木綿雲齋底	白木綿石底	白キヤラコ木綿裏雲齋底	白キヤラコ裏紋羽雲齋底	純白絹天木綿裏雲齋底	紺キヤラコ木綿裏雲齋底
十文	廿九錢	三十錢	廿六錢	廿七錢	廿七錢	廿八錢五厘	五十錢	三十三錢
九文	廿七錢	廿八錢	廿四錢	廿五錢	廿五錢	廿六錢五厘	四十八錢	三十一錢
七文	十七錢	十七錢五厘	十五錢	十五錢五厘	十七錢	十八錢	三十六錢	廿二錢

○八文七分以上は半文每に壹錢增

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會靜岡支部職員小肖

明治四十二年一月廿日(毎月二回五日廿日)發行
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

榛原郡幹事部長
佩二等有功章 稻見みつ子

靜岡支部副長
佩二等有功章 野崎すぐ子

駿東郡幹事部長
佩二等有功章 辻 ぎん子

支部幹事
佩二等有功章 北村せい子

支部評議員
佩三等有功章 井上れつ子

靜岡市幹事部長
佩三等有功章 長島うら子

發行兼印刷人山澤俊夫 編輯人永持德一 發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN